

上海駐在員事務所だより

2010年 春 号



上海万博のテーマをあしらった旧正月の飾り付け

目 次

- I. レポート ～上海万博について～
- II. コラム ～「Better City」をつくるもの～

I. レポート

上海万博について

1. はじめに

上海市では今年5月1日から、中国初の総合的な国際博覧会となる「上海万博」が開催される。2008年の北京オリンピックと並び、中国が国家の威信をかけて取り組んできた国際的イベントである上海万博は、中国内外から多くの人々が来場することによる様々な経済効果が期待される一方で、開催準備の遅れや、期間中の上海市内の各種規制強化等による悪影響も懸念されている。

今回は、上海万博の概要と、開催による影響や効果等についてレポートする。

2. 上海万博の概要

- 正式名称 : 2010年上海国際博覧会
(中国語では「2010年上海世界博覧会」、略称「世博会」)
- 開催期間 : 2010年5月1日～10月31日(開幕式は4月30日に行われる予定)
- 会場 : 上海市中心部の河川「黄浦江」の兩岸、南浦大橋と盧浦大橋の間
- 会場面積 : 328ヘクタール ※大阪万博180ヘクタール、愛知万博173ヘクタール
- テーマ : 「より良い都市、より良い生活 (Better City, Better Life)」
(サブテーマ : ①都市多元文化の融合、②都市経済の繁栄、③都市科学技術の革新、④都市コミュニティの再生、⑤都市と農村の対話)
- 出展機関 : 242の国家および国際機関と、民間出展展示館16館(史上最多)
- 目標入場者数 : 7,000万人(史上最多、1日当たり平均約40万人)
※但し、予想入場者数は1億人超とされている。
大阪万博は目標3,000万人に対して入場者数6,421万人、
愛知万博は目標1,500万人に対して入場者数2,204万人
- 総事業費 : 286億元(1元=13円として約3,718億円)
※大阪万博は1,502億円、愛知万博は1,900億円
- マスコット : 「海宝」(漢字の「人」がモチーフ、色は海をイメージする水色)
(出典 : 上海万博公式HP、外務省HP)

なお、日本関連の出展は、日本政府が中心の「日本館」、民間企業と自治体連合による「日本産業館」のほか、大阪府と大阪市が「ベストシティ実践区」に出展予定。

<参考1> 国際博覧会の区分

日本を含む多数の国が批准している「国際博覧会条約」により、国際博覧会とは「複数の国が参加し、文明の進歩や展望に関する公衆の教育を主たる目的とする催し」であると定義されている。開催を希望する政府が、国際博覧会国際事務局（本部：パリ）に申請して承認されたものだけが「国際博覧会」という名称を用いることができる。

1996年の条約改正以降、国際博覧会は大規模で総合的な内容の「登録博」（従前は「一般博」と、小規模で専門的なテーマによる「認定博」（従前は「特別博」）の2種類に大別されており、登録博は5年おきに開催することが定められている。

過去の主な国際博覧会および関連年表

| 時期 | 開催国（都市） | 特記事項 | 区分 |
|-------|------------|---|-----|
| 1851年 | 英国（ロンドン） | 初めての国際的な博覧会、25カ国が参加 | — |
| 1867年 | フランス（パリ） | 日本から初出品（日本政府公式参加は次回ウィーンから） | — |
| 1928年 | — | 国際博覧会条約採択、日本も加盟 | — |
| 1940年 | — | 東京・横浜での開催が計画されていたが、国際情勢の影響により中止（中止決定は1938年） | — |
| 1970年 | 日本（大阪府） | 日本万国博覧会（大阪万博）テーマ「人類の進歩と調和」（日本初開催） | 一般博 |
| 1975年 | 日本（沖縄県） | 沖縄国際海洋博覧会（沖縄海洋博）テーマ「海—その望ましい未来」 | 特別博 |
| 1985年 | 日本（茨城県） | 国際科学技術博覧会（筑波科学博）テーマ「人間、居住、環境と科学技術」 | 特別博 |
| 1990年 | 日本（大阪府） | 国際花と緑の博覧会（花の万博） | 特別博 |
| 1992年 | スペイン（セビリア） | テーマ「発見の時代」 | 一般博 |
| 1996年 | — | 国際博覧会条約改正（博覧会区分、開催頻度等が変更） | — |
| 1999年 | 中国（昆明） | 昆明世界園芸博覧会 | 特別博 |
| 2000年 | ドイツ（ハノーバー） | テーマ「人間—自然—技術」 | 一般博 |
| 2005年 | 日本（愛知県） | 2005年日本国際博覧会（愛知万博、愛・地球博）テーマ「自然の叡智」 | 登録博 |
| 2008年 | スペイン（サラゴサ） | テーマ「水と持続可能な発展」 | 認定博 |
| 2010年 | 中国（上海） | テーマ「より良い都市、より良い生活」 | 登録博 |
| 2015年 | イタリア（ミラノ） | テーマ「地球を養う生活のためのエネルギー」（予定） | 登録博 |

（出典：外務省 HP）



万博会場の様子（奥が「中国館」）



上海万博の入場券

3. 上海万博に向けた準備状況

(1) 会場建設

日本でも報道されている通り、万博会場の建設工事の遅れが明らかとなっており、万博事務局からも「1～2割のパビリオンの建設が開幕に間に合わない可能性がある」と発表されている。中国の胡錦濤国家主席が1月中旬に自ら会場を視察して「工事を急ぐように」との指示を行っており、やはり工事の遅れが問題となった北京オリンピックと同様に、開幕直前には夜を徹した突貫工事を行うとの情報もある。

全ての施設が完成した後も、例えば、諸施設の中で最も人気を集めると予想されている「中国館」では1日あたりの入館可能人数が5万人に過ぎず、完全予約制での入場制限を行うこととなったために、予想来場者全体の約1割しか入館することができない、といった問題点も報道されている。また、1日平均約40万人の来場が見込まれる中、中国の連休など来場者の集中が予想される時期には、会場内の飲食施設や、会場周辺の宿泊施設の数が不足する可能性も指摘されている。

(2) 都市インフラ整備

上海市内では、万博開催に向けた各種インフラ整備が多数進んでいるが、ここ数年は道路や地下鉄の工事が至る所で行われていたため、交通渋滞や景観の悪化などが、市民の日常生活や観光客等へも影響を与えていた。

ようやく今年に入って、高架道路やトンネルの新設、道路の拡幅等、市内の道路整備が完了してきたほか、地下鉄網の整備も進み、営業距離では昨年末時点で既に東京を抜いてアジア最長の330キロメートルに達し、万博開催までには11路線、総延長420キロメートルまで拡大する予定である。3月には、市内西部の虹橋国際空港で新設した2本目の滑走路と新ターミナルの使用が開始され、それに隣接する鉄道や長距離バス、地下鉄の発着点となる上海虹橋総合交通ターミナルも運用を開始する予定である。この数年間進行してきたインフラ整備が万博の開幕を機に一気に仕上がり、上海市及び周辺地域の交通インフラが飛躍的に改善することが見込まれている。

しかしながら、その一方で、急激な交通インフラの拡大に管理能力が追いついていないという問題も指摘されている。中でも、この1年間で営業距離が100キロメートル近く伸びた地下鉄では、電気系統のトラブルや、駅舎の設計ミスによる乗降制限等が多発しており、安全性の向上が望まれる状況となっている。

4. 市民生活と経済活動への影響

今回の万博開催に向けて、上海市では以下のような各種規制の強化が行われており、経済活動や市民生活への影響が懸念されている。

(1) 地下鉄駅での手荷物検査

万博期間中は上海市内地下鉄の全駅でX線による手荷物検査が実施される予定であり、各駅には既に検査機械が設置されているほか、一部の駅については既に検査が実施されているところもある。飲料や化粧品等の液体が「危険物」として一律持ち込み禁止とされるなど厳しい規制となっており、朝夕のラッシュ時には相当の混乱が予想される。

なお、危険物持ち込み防止のため、万博会場の入口でも厳格な手荷物検査が予定されており、液体（飲料や化粧品等）やライター等の持ち込みが制限される見通しである。



地下鉄駅に設置されたX線検査機

(2) 市内施設の禁煙化

上海市では3月1日から、学校や病院等12種類の施設を全面禁煙とする条例が施行された。ホテルや空港、一定規模以上の飲食店等でも、規定を満たした喫煙コーナーだけを喫煙可能とする「分煙」が義務付けられた。

上海市当局は「煙の無い万博」を公約しており、万博会場の展示館内は全面禁煙とされるほか、ライターの持ち込みも禁止されることとなっており、喫煙に対する厳しい制限が行われる予定である。

(3) 交通規制

万博会場周辺7平方キロメートル以内の範囲では一般車両の進入を禁止するほか、ナンバープレート末尾の数字によって車両通行規制を行うことが検討されている。

また、一部の地下鉄駅に過度の混雑が見られる状況を受けて、一部の企業に万博期間中の時差出勤を要求することを上海市政府が検討しているとの報道もある。

(4) 建設工事規制

万博開催期間中は、円滑な道路交通の確保及び景観維持を目的として、会場の周辺25平方キロメートル以内では建設工事の新規着工が一切禁止されるほか、市内の主要道路および外環状線の内側の全ての道路の工事が禁止される予定である。

(5) 宿泊施設の不足

上海市内のホテルには約40万床のベッド数があるといわれているが、ピーク時には

上海市内だけでは観光客が収容できない恐れがあるほか、時期によっては、宿泊価格が高騰することも考えられる。既に会期前半の5月～7月にかけては、主要ホテルには相当数の団体予約が入っており、例えば日本からの関係者来訪が集中する6月13日からの「ジャパンウィーク」前後は、大手日系ホテルの予約は既に一杯との情報もある。

(6) 物流の遅延

中国では、国家的なイベントの期間中、万一の事故発生を防ぐために税関や検疫などの検査が厳重になり、結果として輸出入業務が大幅に遅延するケースがある。北京オリンピック開催前後にも一部の食品等の輸出入が事実上ストップしたが、上海万博は開催期間が半年間と長く、各種物流への影響が心配される。

5. 万博開催による効果と今後の展望

(1) インフラ整備による経済基盤の充実

1970年に開催された大阪万博は、1964年の東京オリンピックと共に、日本の高度経済成長時代を象徴するイベントとして位置づけられている。この2つのイベントの開催に合わせて、日本では新幹線や地下鉄、高速道路等のインフラ整備が飛躍的に発展し、のちの経済発展の基盤となった。

交通インフラが続々と整備され、都市機能の向上による物流の効率化や人的交流の活性化が期待される現在の上海は、まさに高度経済成長期の日本の姿と重なり、今後の更なる経済発展が予想される。

(2) 都市生活文化の中国全土への伝播

中国はこの30年間、外資導入を梃子に沿海部を先導役として発展を遂げてきた。上海、北京、広州等、沿海部の大都市生活者は、既に一定の生活水準にあるといえる。

万博の開催目的はその時代の新技術や文化を広く発信することであり、その結果として、万博は大衆の生活水準の向上や消費拡大等に役立ってきた歴史がある（＜参考2＞参照）。都市と生活をテーマとする上海万博開催を契機に、世界各国の出展者が展示する「より良い生活」を中国の一般大衆が実際に見聞することで、現在は沿海部の一部にとどまるこうした都会的な消費文化が、13億の人口のうち最も層の厚い中間層や内陸部、農村部にも広がる起爆剤となることが見込まれ、中国政府が取り組む、外需（輸出）と投資に依存しない内需主導型の経済構造への変革に向けた波及効果が期待される。

＜参考2＞過去に万博で紹介された新技術等

| |
|---|
| 蓄音機、自動車、エレベーター、冷蔵庫、電話、エッフェル塔建設、X線技術、無線通信、地下鉄、動く歩道、ナイロン、プラスチック、テレビ、月の石（大阪万博） |
|---|

(3) 旅行・観光業の発展

上海万博の目標来場者数7千万人のうち、海外からの来場者は5百万人程度と見積もられている。大阪万博の例も見て、海外からの来場者を迎える宿泊施設の整備はもとより、外国人への対応に関する意識の面でも、万博は開催国の国際化への大きなきっかけとなり得る。

また、来場者の大半は、自国初の大イベントを見ようと中国全土から移動する国内旅行者である。大阪万博以後の日本がそうであったように、上海万博も、多くの中国人にとって、国内・海外の都市や景観を実際に見聞したいとの欲求が高まり、旅行・観光業が飛躍的に発展する契機となる可能性がある。今年2月中旬の旧正月期間には、日本はもとより欧米でも中国人の購買力が大きな話題となったが、一部富裕層に限られていた旅行を楽しむ層が中国で拡大すれば、かつての日本人の海外旅行ブームをはるかに超える影響を世界中に与えるであろう。

6. 最後に

2008年に開催された北京オリンピックが、発展する中国の国力を世界に誇示する機会であったとするならば、今年開催される上海万博は、中国の一般市民へ世界の生活文化を伝え、その消費行動をより発展させる啓蒙の機会として記憶されるのではないかと思われる。

様々な運営上の不安や問題点を抱えながら開幕が目前に迫っている上海万博であるが、「中国国民の生活水準向上の大きな転機」として、後々まで多くの人々に語り継がれるよう、スムーズな運営の実現と、博覧会の成功を祈りたい。



開幕まであと77日（2月14日）

Ⅱ. コラム

「Better City」をつくるもの

中国最大の国際都市といわれる上海市ですが、先進国の大都市に比べれば、交通マナーや生活上のエチケットが未だに浸透していない部分が多くあります。万博開催を間近に控えた上海市内では、世界各国から訪れる来場者を迎えるに相応しいマナーの実行を呼びかけるスローガンをよく見かけます。「精彩世博、文明先行」（素晴らしい万博とするためには、まずは文化的な行動から）といった抽象的なものから、地下鉄ホームの「先下後上」（先に降りて、後から乗りましょう）や、エスカレーターの「左行右立文明乗梯」（右側に立って左側を空けるのが文化的な乗り方）といった具体的な行動を示すものまで、その内容は様々です。

また、上海市では昨年からは、毎月5の付く日を窓口サービスの向上や環境整備、公共秩序の遵守を促進する日として定め、市民の意識向上を図っています。その他、この3月からは禁煙条例が施行され、学校、病院の全面禁煙はもちろん、大規模飲食店でも喫煙室以外では禁煙という厳しい内容となっています。日頃目にして中国のおおらかな慣習から考えれば驚くほどのマナー向上への取り組みですが、急成長する経済規模に相応しく、文化的にも世界の一流都市になろうという気概も感じられます。

上海万博のテーマ「より良い都市、より良い生活（Better City, Better Life）」を実現する要素としては、都市インフラの整備や民生技術の発展・普及といったハードの部分だけでなく、市民のマナー向上など、ソフト面の充実が大変重要であるといえます。この数年は万博開催に向けた道路や地下鉄の工事等が至る所で行なわれ、日常生活でも不便を強いられていましたが、その分「洗練されたマナーで来場者を迎え、世界に誇れる万博にしよう」という機運が高まってきたように思われます。

上海万博の会期中、上海には中国全土から数千万人の万博来場者が訪れます。マナーやホスピタリティの向上に目覚めた上海市民の意識が、各地から集まる地方出身者にも伝わって、全国的な文化水準の向上や、国際的にも開かれた意識が根付く契機になることを期待しています。



毎月 5 日：窓口サービス向上の日
毎月 15 日：環境整備の日
毎月 25 日：公共秩序の日を示す看板



地下鉄構内の立看板
(万博に向けて、我々も行動しよう)